

3-1. 書架調査

調査場所: ○○○協議会 ○○さんが管理しているエリアのみ							記入者: ○○			連番:		
担当名	什器NO	上からの段数	什器種類	什器外資料量	A4サイズ		B4・A3	紙袋	書籍雑誌	写真ビデオCD、DVD	物品・文房具用紙等	備考
					バインダー、レターファイル	細綴じ						
○○	1	1のみ	900W×900H×450D 鉄引違い							0.8		VHS、DVD、音声テープ
		什器上		0.7	0.1			0.1	0.1	0.3	0.1	健診時のシート(ダンボール1)
	2	1	900W×900H×450D 鉄引違い						1.6			
		2							1.2			
		3							1.6			
	3		900×900×450 鉄引違い									対象外
	4	扉右1	1800W×900H×450D 鉄引違い						1.7			
		扉右2			0.3				0.25		0.4	
		扉右3	棚板なし						0.4			配布用冊子
	5	上	木製棚450W	0.45	0.1				0.15		0.2	○○さんデスク左
		1							0.4			
		2									0.2	
		3			0.1				0.3			
	机	上		0.2					0.2			
			左引出し		0.4							
			右引出し		0.45							会計資料
	6	1~3	900W×900H×450D 鉄引違い		0.5	1.1			0.25			部屋の外窓際(古いもの)
合計				1.35	1.95	1.1	0	0.1	8.15	1.1	0.9	13.3
資料量調査: 0.5fm単位で記入									61.28%		什器外率	10.15%
									書籍比率			

3-2. 書架調査

調査場所: ○○○協議会の裁判記録											記入者: ○○	連番:
担当名	什器NO	上からの段数	什器種類	什器外	A4サイズ		B4・A3	紙袋	書籍	写真	物品・文房具	備考
				資料量	バインダー、 レターファイル	フォルダー			雑誌	ビデオ CD、DVD	用紙等	
○○	4	1～5	ガラス引違戸棚	5								ガラス引違戸棚1000W×300D×1800H
	5	1～5	ガラス引違戸棚	5								ガラス引違戸棚1000W×300D×1800H
	6	1～5	ガラス引違戸棚	5								ガラス引違戸棚1000W×300D×1800H
合計				15								15

資料量調査: 0.5fm単位で記入

(H) ○○○協議会の資料保存状態写真

記録物の全体写真、書架別、形態別の写真

<注記>

- ◎記録物の保存の現況が把握できるように現場の写真を有りのままに管理する。
- ◎各書庫・資料室、書架別に写真を撮って管理する。
- ◎今後、各団体に渡して、資料整理のための基礎データとして活用する。
- ◎団体の要請により、写真の掲載はしません。

## 9. (I) ○○○薬害団体

### 1. 収集資料（できれば発生順／出所別／原秩序（＝配列順）／代表的な資料名）

- ① 原告団・弁護団
- ② 支援者・支援団体
- ③ 裁判・和解
- ④ 行政
- ⑤ 病名各種資料
- ⑥ 公害・薬害問題一般(含 一般メディア)
- ⑦ 書籍・雑誌（かつて職員の一人が、○○○図書館とつくりようとしたが2年前に退職）
- ⑧ 運動家個人活動資料
- ⑨ 写真・映像

### 2. 記録管理の現状と課題

項目	a.現状	b.課題
1.資料量	79.1fm 2年前に重複分シュレッダーを委託して廃棄した（車にシュレッダーを積み目で実施）。 床上に8個のダンボールが未整理。	
2.形態・媒体	A4、B4、B5の紙ファイル 診断書は電子化済（ニチマイに委託。資料は持出し不可のため、訪問してスキャニング作業） 開封不可の個人情報含むものはダンボール箱のまま棚に保管。	診断書は保存年限5年経過後のものが、病院から送付される。レントゲン写真は劣化が進んでいるが、対策をとっていない。
3.ファイル名	比較的良好に書かれている。	
4.ファイル用品	バインダー、レターファイル、フォルダーとボックス、黒紐綴じ、マチ付きフォルダー、写真用ファイル、製本	
5.収納場所	1F書庫：3連、2連の移動ラック。内訳： オープン棚6段（900W/450D/1800H）：10本、 両開き保管庫3段＋ラテラルキャビネット3段（同サイズ）：5本 什器の内容表示あり。	1F書庫に集中。 但し、2Fの事務所スペースは見えていない。

6.分類	本／裁判記録／証書等、大枠は3年前からできている。	
7.機密区分有無	個人情報が多く施錠され、アクセス制限実施。	公開のコンセプトを決める必要あり。本人がどこまで犠牲を払うのか判断が難しい。
8.保存・劣化対策	8 ミルフィルムはCD化。 診断書は電子化。	レントゲンフィルムは媒体変換未実施。
9.整理要員	2～3人（臨時）	2014年度の資料名リストにすぐ利用できるが、開示できないファイル名は黒塗りの必要がある。
10.その他	即時に検索し、取り出すことができない。	データベース化

3. 書架調査

調査場所: (I)〇〇〇薬害団体												記入者: 〇〇	連番:
担当名	什器NO	上からの段数	什器種類	什器外	A4サイズ		B4・A3	紙袋	書籍	写真	物品・文房具	備考	
				資料量	バインダー、 レターファイル	フォルダー			雑誌	ビデオ CD、DVD	用紙等		
〇〇	1	1~6	壁面移動ラック オープン棚		3.2			0.8				ダンボール箱+手提袋(裁判証書→必要外は開けない)	
	2	1~6	壁面移動ラック オープン棚		5.2							内数0.4は他団体のもの 「□□□」ファイル→当時の中心人物 「□□□」ファイル→薬の改善後のもの提案書(製薬会社)	
	3	1~6	壁面移動ラック オープン棚			1.4	1.3	1.6		0.8		ファイルボックスは個人情報 研究論文	
	4	1~6	壁面移動ラック オープン棚						9.6			在庫用出版物	
	8	1~6	壁面移動ラック オープン棚							4.0	0.3	ネガ、写真	
	9	1~6	壁面移動ラック オープン棚		0.3		0.8	0.4	0.8	1.6		スクラップ(含寄贈) 音テープ(ケース入り)	
										0.8		写真、8ミリテープの リスト一覧あり	
	10	1~6	壁面移動ラック オープン棚		0.8	3.0				0.1		DVC(デジタルビデオカメラ)	
									0.3	0.4		「□□の会」「〇〇」	
	11~13	1~6	両開き3段+ ラテラル3段(移動ラックの最前面)			14.4						施錠(個人情報)	
	5	1~6	壁面移動ラック オープン棚		3.2				1.6			裁判記録	
	6	1~6	壁面移動ラック オープン棚						5.1				
	7	1~6	壁面移動ラック オープン棚		1.3		0.3	2.4	0.5			評議員、会計、〇〇〇ニュース製本	
	14	1~6	両開き3段+ ラテラル3段(移動ラックの最前面)		4.8							理事会(施錠)	
	15	1~6	両開き3段+ ラテラル3段(移動ラックの最前面)		4.8							施錠	
	床上			3.2	3.2							ダンボール床置き	
合計				3.2	26.8	18.8	2.4	5.2	17.9	7.7	0.3	79.05	
資料量調査: 0.5fm単位で記入									22.64%				
									書籍比率		什器外率	4.05%	

## (I) ○○○被害団体の資料保存状態写真

記録物の全体写真、書架別、形態別の写真

<注記>

◎記録物の保存の現況が把握できるように現場の写真を有りのままに管理する。

◎各書庫・資料室、書架別に写真を撮って管理する。

◎今後、各団体に渡して、資料整理のための基礎データとして活用する。

◎団体の要請により、写真の掲載はしません。

## V. 参考資料・参考図書

1. 参考資料：資料目録フォーマット（記入例・注意事項）

受入番号	形態記号	ファイル番号	アイテム番号	ファイル名	ファイル作成者	アイテム名	アイテム作成者	アイテム受信者	アイテム作成年月日	公開評価	非公開理由	備考
	P	0001	(※空欄)	薬害○○○原告準備書面	弁護士△△△、□□□	(※空欄)	(※空欄)	(※空欄)	1999.03			
	P	0002		ニュースレター「ひかり」No.1～24	薬害○○○ネットワーク				1999.01～1999.12			No.23欠落。
	P	0003		薬害○○○関連新聞記事スクラップ集	○○○				1999.01～1999.05			
	P	0004		書簡(FAX)	薬害○○○ネットワーク							
	B	0005		書籍『薬害○○○裁判の軌跡』	薬害○○○原告・弁護団				2003.05.26			同一書籍が1箱に20冊保存されている。
	B	0006		書籍箱	弁護士△△△				1995～2001			薬害○○○に関連する身体症状についての参考文献など。
	V	0007		薬害○○○関連テレビ報道VHSテープボックス	○○○				1998.11～1999.09			薬害■■■■についての報道映像も混入している。
	V	0008		1999年3月厚労省前抗議集会写真アルバム No.1～5	薬害○○○ネットワーク、弁護士△△△				1999.03.25			集会後のデモの写真は欠落。
	V	0009		1999年3月厚労省前抗議集会記録映像DVD 1998～2000	薬害○○○ネットワーク				1998.03～2000.03			
	E	0010		××高裁判決関連資料	弁護士△△△、□□□				1999.05			web上のストレージサービスにPDF資料として保存。関西・関東共有。
	M	0011		1999年3月厚労省前抗議集会で使用したパネル・たすきなど	薬害○○○ネットワーク				1999.03			写真パネル・たすきのほか、帽子・鉢巻きなどを含む。
<p>※(※空欄)の部分は、いずれご入力いただきますが、現時点では空欄のままで結構です。</p> <p>※水色の項目については、各団体の事情などをうかがいながら調査班側で入力いたします。</p> <p>●形態記号＝紙資料はP／視聴覚資料(VHS、フィルム写真など)はV／出版刊行物(ISBN記号があり価格がついている書籍)はB</p>												

## 2. 参考文献 (書名、著者・編者、出版者、発行年)

### <記録学関連図書>

- 『史料館・文書館学への道—記録・文書をどう残すか—』、安澤秀一、吉川弘文館、1985年
- 『史料保存と文書館学』、大藤修・安藤正人著、吉川弘文館、1986年
- 『記録管理と文書館：国際文書館評議会派遣使節第1回文書館振興国際会議報告集』、ICA Mission 受入実行委員会編、全国歴史資料保存利用機関連絡協議会、1987年
- 『記録管理システム』、ウイリアム・ベネドン著；作山宗久訳、勁草書房、1988年
- 『レコード・マネジメント：記録管理学会誌 = Records management : journal of the Records Management Society of Japan』、記録管理学会 編、記録管理学会、1993年
- 『地域文書館論』、高野修、岩田書院、1995年
- 『記録史料の管理と文書館』、安藤正人、青山英幸編著、北海道大学図書刊行会、1996年
- 『草の根文書館の思想』安藤正人、岩田書院ブックレット3、岩田書院、1998年
- 『記録史料学と現代：アーカイブズの科学をめざして』、安藤正人著、吉川弘文館、1998年
- 歴史人類学会編『国民国家とアーカイブズ』(日本図書センター、1999年11月)
- 『記録史料記述の国際標準』アーカイブズ・インフォメーション研究会編訳、北海道大学出版会、2001年
- 『情報公開制度のための文書管理：行政編』、紀伊國屋書店、2001年
- 『組織のための知的資産の蓄積と伝承：企業編』、紀伊國屋書店、2001.2
- 『近現代史料の管理と史料認識』鈴江英一、北海道大学図書刊行会、2002年
- 『文化情報学—人類の共同記憶を伝える—』安澤秀一・原田三郎編著、北樹出版、2002年
- 『日本のアーカイブズ論』全史料協編、岩田書院、2003年
- 『アーカイブズの科学』、国文学研究資料館史料館編、柏書房、2003年
- 『地域と歩む史料保存運動』越佐史料調査会編、岩田書院ブックレット9、岩田書院、2003年
- 『電子媒体による公文書等の適切な移管・保存・利用に向けて：調査研究報告』、国立公文書館、2006年
- 記録管理学会・日本アーカイブズ学会共編『入門アーカイブズの世界—記憶と記録を未来に—』(日外アソシエーツ、2006年)
- 『入門アーカイブズの世界：記憶と記録を未来に：翻訳論文集』、記録管理学会、日本アーカイブズ学会共編、日外アソシエーツ、2006年
- 『The 2nd Asia-Pacific conference for archival educators and trainers “The archival science and archival education in the electronic age” professional seminar = 第2回アジア太平洋アーカイブズ学教育国際会議「電子時代におけるアーカイブズ学研究とアーカイブズ学教育」専門セミナー』compiled by Masahito Ando, Kaori Maekawa, Akihiro Hirayama, International Council on Archives、2006年
- 『アーカイブズの眼—記録の管理と保存の哲学—』大濱徹也、刀水書房、2007年
- 『明日の図書館情報学を拓く：アーカイブズと図書館経営：高山正也先生退職記念論文集』、高山正也先生退職記念論文集刊行会編、樹村房、2007年
- 小川千代子・小出いづみ編『アーカイブへのアクセス—日本の経験、アメリカの経験—』(日外アソシエーツ、2008年)
- 『文書管理・記録管理入門：ファイリングからISO マネジメントまで』、城下直之、日外アソシエーツ、2008年
- 『電子文書保存のしくみと実務：記録管理の基本と標準化』、木村道弘・前田陽二・宮崎一哉著、中央経済社、2008年
- 『研究者のためのアメリカ国立公文書館徹底ガイド』、仲本和彦、凱風社、2008年
- 『今、なぜ記録管理なのか=記録管理のパラダイムシフト：コンプライアンスと説明責任のために』、小谷允志著、日外アソシエーツ、2008年
- 『アジアのアーカイブズと日本：記録を守り記憶を伝える』、安藤正人著、岩田書院、2009年
- 『アーカイブズが社会を変える—公文書管理法と情報革命—』松岡資明、平凡社新書、2011年
- 『つながる図書館・博物館・文書館』石川徹也ほか編、東京大学出版会、2011年

『実践アーカイブ・マネジメントー自治体・企業・学園の実務ー』朝日崇、出版文化社、2011年  
『マルチレベルモデル入門：実習：継時データ分析』、安藤正人、ナカニシヤ出版、2011年  
『電子記録応用基盤に関する調査検討報告書：クラウド時代の安心安全な電子記録管理：電子記録応用基盤フォーラム(eRAP)』、日本情報経済社会推進協会、2011年  
『文書と記録のはざままで：最良の文書・記録管理を求めて』、小谷允志、紀伊國屋書店、2013年  
David B. Gracy II、*Archives&Manuscripts:Arrangement&Description*、SAA、1977  
Frebric M. Miller、*Arranging and Describing Archives and Manuscripts*、The society of American Archives Chicago、1990  
SusieR, Bock/Lucy M.Krammer/George Miles、*Guide to the Felij S. Cohen Papers WAMSS S-1325*、1991/Revised 2010

#### < 薬害関連図書 >

『お前は忘れても、俺は忘れへんー「薬害エイズ」絶望からの闘い史上最悪の医療犯罪の真実』、家西悟、ロングセラーズ、1997年  
『ミドリ十字と731部隊ー薬害エイズはなぜ起きたのか』、松下一成、三一書房、1996年  
『薬害エイズ国際会議』、大阪 HIV 訴訟弁護団、彩流社、1998年  
『家西悟全記録ー薬害エイズと闘う』、家西悟、解放出版社、2000年  
『薬害エイズ裁判史第1〜5巻』、東京 HIV 原告団、日本評論社、2002年  
『薬害 HIV 感染被害者遺族の人生ー当事者参加型リサーチから』、山崎喜比古・井上洋士、東京大学出版会、2008年  
『健康被害を生きるー薬害 HIV サバイバーとその家族の20年』、井上洋士・伊藤美樹子、山崎喜比古、勁草書房、2010年  
『安部英医師「薬害エイズ」事件の真実』、武藤春光・弘中惇一郎、現代人文社、2008年  
『薬害エイズー終わらない悲劇』、櫻井よし子、ダイヤモンド社、1999年  
『健康被害を生きるー薬害 HIV サバイバーとその家族の20年』、井上洋士ほか編、勁草書房、2010年  
『日本に生きるということ 薬害エイズ被害者が光を見つけるまで』、川田龍平、講談社、2007年  
『この国はなぜ被害者を守らないのか子ども被災と薬害エイズ』、川田龍平、PHP 研究所、2013年  
『薬害エイズを生きるー帝京大病院血友病患者島田照国の記録』、西野瑠美子、明石書店、1996年  
『血の帝国ー日米薬害エイズの舞台裏』、マサミ・コバヤシ・ウィーズナー、彩流社、1996年  
『新ゴーマニズム宣言スペシャル脱正義論』、小林よしのり、幻冬舎、1996年  
『日本のエイズー薬害の犠牲者たち』、広河隆一、徳間書店、1993年  
『薬害エイズ再考ー医師から見た薬害エイズの真実』、加沼戒三、花伝社、1998年  
『砂時計のなかでー薬害エイズ・HIV 訴訟の全記録』、島本慈子、河出書房新社、1997年  
『薬害エイズの真相』、広河隆一、徳間書店、1996年  
『いのちの歌薬害肝炎たたかひの軌跡』、山口美智子、毎日新聞社、2010年  
『ドキュメント検証 C 型肝炎ー薬害を放置した国の大罪』、フジテレビ C 型肝炎取材班、小学館、2004年  
『がんばらんと! 薬害に遭って、見えてきたこと』、福田衣里子、朝日出版社、2009年  
『薬害肝炎ー誰が C 型肝炎を「国民病」にしたか』、大西文恵、金曜日、2005年  
『薬害 C 型肝炎女たちの闘いー国が屈服した日』、岩澤倫彦・フジテレビ調査報道班、小学館、2008年  
『薬害肝炎とのたたかひー350万人の願いをかかげて』、薬害肝炎全国原告団出版委員会、桐書房、2009年  
『薬害肝炎裁判史』、薬害肝炎弁護団、日本評論社、2012年  
『薬害ヤコブ病の軌跡(第1巻)裁判編』、薬害ヤコブ病被害者弁護団全国連絡会議、日本評論社、2004年  
『薬害ヤコブ病の軌跡(第2巻)被害・運動編』、薬害ヤコブ病被害者弁護団全国連絡会議、日本評論社、2004年  
『薬害ヤコブ病ー見過ごされた警告』、井元里士、かもがわ出版、1999年

『心の叫び—薬害ヤコブ病裁判解決へのみちのり』、薬害ヤコブ病大津訴訟弁護団、かもがわ出版、2003年  
『いのちを返せ!—ドキュメント薬害ヤコブ病とたたかった人びと』、矢吹紀人・薬害ヤコブ病闘いの記録編集委員会、あけび書房、2004年  
『薬害シンドロームを絶て!くりかえされた悲劇薬害ヤコブ病』、薬害ヤコブ病問題シンポジウム実行委員会、ケイ・アイ・メディア、2000年  
『注射による筋短縮症、注射による筋短縮症全国自主検診医師団学術調査委員会、三一書房、1996年  
筋短縮症一つくられた障害児たち』、注射による筋短縮症から子供を守る全国協議会、績文堂出版、1977年  
『山梨筋短縮症裁判の記録』、山梨筋短縮症裁判弁護団、日本評論社、1994年  
『薬害スモン』、亀山忠典、大月書店、1977年  
『薬害を負うて行く』、横山悦子、鶴書院、1997年  
『岩手スモン運動誌失われた時の叫び—薬害スモンとの闘いとその軌跡』、帷子貢、岩手スモンの会、2000年  
『スモン被害—薬害根絶のために』、高野哲夫、三一書房、1979年  
『空前の薬害訴訟—「スモンの教訓」から何を学ぶか』、泉博、丸ノ内出版、1996年  
『スモン・スキャンダル—世界を蝕む製薬会社』、オッレ・ハンソン、朝日新聞社、1978年  
『裁かれる現代医療—スモン・隠れた加害者たち』、高橋暁正・水間典昭、筑摩書房、1981年  
『スモン事件と法』、淡路剛久、有斐閣、1981年  
『スモン訴訟の記録』、スモン訴訟東京弁護団、スモン訴訟東京弁護団、1983年  
『薬害スモン全史全4巻』、スモンの会全国連絡協議会、労働旬報社、1981年  
『グラフィック・ドキュメントスモン』、羽賀しげ子・実川悠太・小林茂、日本評論社、1990年  
『神と悪魔の薬サリドマイド』、Rock Brnner, Trent Stephens、日経BP社、2001年  
『サリドマイドと医療の軌跡』、栢森良二、西村書店、2013年  
『サリドマイド物語』、栢森良二、医歯薬出版、1997年  
『サリドマイド事件全史』、川俣修壽、緑風出版、2010年  
『不思議の薬—サリドマイドの話』、鳩飼きい子、潮出版社、2001年  
『薬品公害と裁判—サリドマイド事件の記録から』、藤木英雄・木田盈四郎、東京大学出版会、1974年  
『サリドマイド—科学者の証言』、増山元三郎、東京大学出版会、1971年  
『イレッサ薬害—判決で真実は明かされたのか』、片平冽彦、桐書房、2013年  
『陣痛促進剤あなたはどうする—お産の前に一番大切なことについてきちんと説明を受けていますか?』、陣痛促進剤による被害を考える会、さいろ社、2003年  
『病院で産むあなたへ—クスリ漬け出産で泣かないために』、陣痛促進剤による被害を考える会、さいろ社、1995年  
『薬害はなぜ隠されたのか—“生け贄”にされた医師の告発』、水沢溪、三一書房、1997年  
『タミフル薬害—製薬企業と薬事行政の責任と課題』、片平冽彦、桐書房、2009年  
『知っておきたい薬害の教訓—再発防止を願う被害者からの声』、医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団、薬事日報社、2012年  
『ノーモア薬害—薬害の歴史に学び』、その根絶を、片平冽彦、桐書房、1997年  
『薬害過失と因果関係の法理』、塩野隆史、日本評論社、2013年  
『和英対訳日本の薬害事件—薬事規制と社会的要因からの考察』、一般財団法人医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団、薬事日報社、2013年  
『厚生省薬害史—行政の歪が見えてくる!厚生省薬事関連訴訟の軌跡』、富塚孝、三一書房、1997年  
『チバガイギーの内幕—薬害の構造』オッレ・ハンソン、青木書店、1989年  
『ハンセン病・薬害問題プロジェクト作為・不作為へ』、山本務・熱田一信、本の泉社、2007年  
『厚生省の「犯罪」—薬害』、毎日新聞薬害エイズ取材班、日本評論社、1997年  
『日本の薬害』、高野哲夫、大月書店、1979年  
『戦後薬害問題の研究』、高野哲夫、文理閣、1981年  
『ドキュメント日本の公害第3巻薬害・食品公害』、川名英之、緑風出版、1989年

『薬害を追う記者たち』、毎日新聞大阪医療取材班、三一書房、1996年  
『薬害の社会学—薬と人間のアイロニー』、宝月誠、世界思想社、1986年  
『凶解薬害・副作用学（みてわかる薬学）』、川西正祐・小野秀樹、南山堂、2013年  
『薬害はなぜなくなるか—薬の安全のために』、浜六郎、日本評論社、1996年  
『ノーモア薬害—薬害の歴史に学び』、その根絶を、片平冽彦、桐書房、1997年  
『腐蝕の連鎖薬害と原発にひそむ人脈』、広瀬隆、集英社、1996年  
『FDAの知識ジェネリック薬—不安と期待』、石居昭夫、薬事日報社、2012年  
『薬害と政治—薬の氾濫への処方箋』、フィリップ・R.リー、紀伊国屋書店、1978年  
『薬害—その医学的・薬学的・法学的側面』、曾田長宗・講談社サイエンティフィック、講談社、1981年  
『舛添メモ厚労官僚との闘い752日』、舛添要一、小学館、2009年  
『厚生労働省戦記—日本政治改革言論』、舛添要一、中央公論新社、2010年  
『医療事故・カルテ開示・患者の権利』、石井昭男、明石書店、2001年  
『戦後行政の構造とディレンマ—予防接種行政の変遷』、手塚洋輔、藤原書店、2010年  
『カルテ改ざんはなぜ起きる—検証：日本と海外』、石川寛俊、日本評論社、2006年  
『医療と裁判—弁護士として、同伴者として』、石川寛俊、岩波書店、2004年  
『医薬を近代化した研究と戦略』、山下麻衣著、芙蓉書房出版、2000年  
『MMRワクチン薬害事件 新3種混合ワクチンの軌跡』MMR訴訟弁護団編著、2007年

文献番号	201328048A
報告区分	総括
研究年度	平成 25(2013)年度
研究課題名	薬害に関する資料等の調査・管理・活用等に関する研究
課題番号	H25-医薬-指定-003
研究分野名	健康安全確保総合研究
研究事業名	医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究
研究代表者	金 慶南

